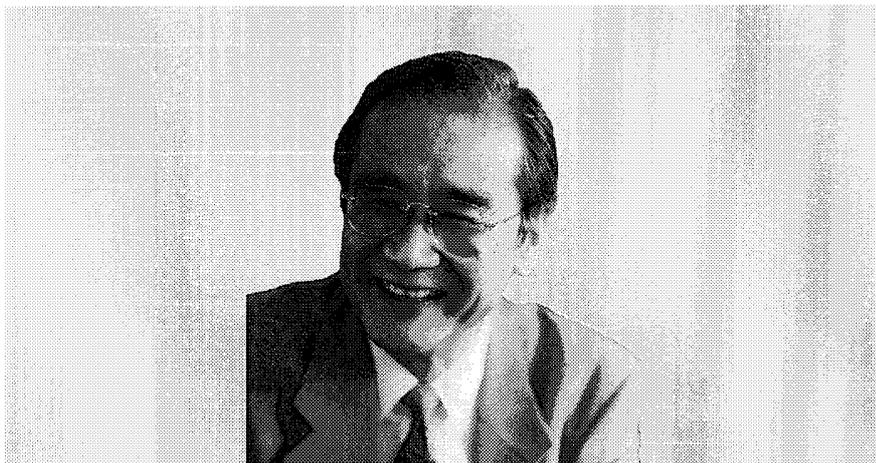


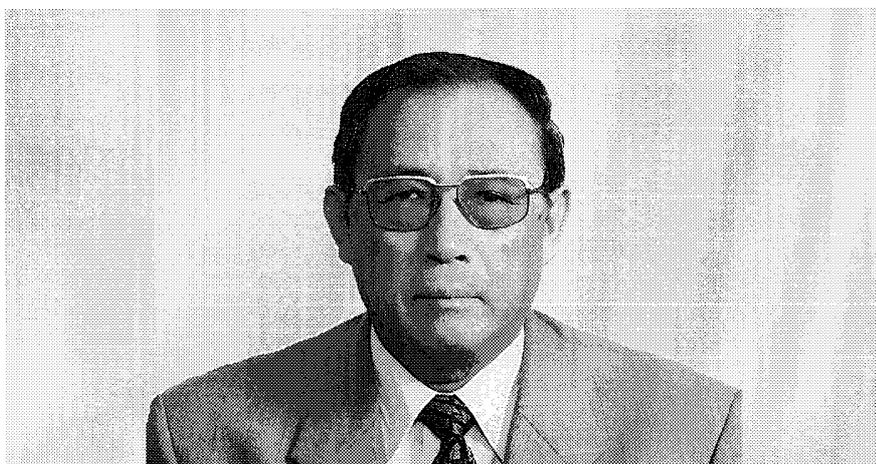
〔特集 高木教典教授・井上宏教授・水越敏行教授 定年退職記念〕



高木教典 教授



井上宏 教授



水越敏行 教授

高木教典先生・井上 宏先生・水越敏行先生のご定年退職にあたって

総合情報学部長 加藤 隆

関西大学総合情報学部がここ高槻キャンパスに開設されたのはちょうど10年前の1994年4月のことである。その後、1998年には大学院総合情報学研究科修士課程、さらに2000年には同博士課程後期課程が設置され、昨年3月には最初の博士課程後期課程修了者が輩出された。すなわち、情報学に関する学部から大学院博士課程後期課程にいたるまでの一貫した教育・研究の体制が一応の完成をみたことになる。

学部創設10周年という節目を迎え、次の10年へ向けての新たなチャレンジを開始すべきときにあたり、温故知新の習いにより、開設準備期からの10数年の歴史を尋ねてみた。そこには、文理総合型の情報系学部というユニークな理念の具体化作業から、学部さらには大学院の創設期における舵取りにいたるまで、困難な状況にあって多大な貢献を果たされた諸先輩方の姿があった。その諸先輩方こそ、今号に退職者記念論文をご寄稿いただいた高木教典先生、井上 宏先生、水越敏行先生であった。

高木教典先生は、1992年に東京大学を定年退官された後、関西大学社会学部に着任され、すぐさま総合情報学部設置委員、同開設準備委員会委員長として学部創設にご尽力された。さらに、初代学部長として学部の礎を築かれ、続いて大学院総合情報学研究科開設にあたり、初代研究科長として研究科の礎をも築かれた。

井上 宏先生は、読売テレビ放送を経て、1973年に関西大学社会学部に着任され、本学においてながく教育・研究に携われた。総合情報学部設置委員として当初よりご尽力され、同開設準備委員会副委員長、初代学部長代理として、高木先生を見事に支え、ともに学部の礎を築かれた。

水越敏行先生は、大阪大学教授を経て、本学部開設2年目の1995年に着任され、翌年には高木先生の後を受けて学部長職に就かれた。そして、いまだ草創期にある学部の困難な運営に当たられ、学部長として第一期の卒業生を無事送り出されるとともに、大学院開設にもご尽力された。

このように、総合情報学部が学部創設から今日の陣容を整えるまでに発展できたのは、ひとえに、高木先生、井上先生、水越先生がご自身の幅広い教育・研究のご経験とご見識をもとに、リーダーシップを発揮し、我々を導いてくださったおかげである。まさに、総合情報学部の“Founding Fathers”であると、この場をお借りして深く感謝申し上げるしだいである。

今号掲載の退職者記念論文は3人の先生方の退職記念最終講義をもとに加筆修正されたものである。お三方とも我々のカリキュラムで言えば「メディア情報」領域の専門家であり、メディアを1つのキーワードとして縦横無尽の展開を呈示されている。いまさらながらに、各先生の専門家としての力に感嘆を覚えるところである。お一人お一人の語り口を懐かしく思い起こしつつ、ご健勝とさらなるご活躍をお祈りするしだいである。